

新元号『令和』を歓迎

—世界のための日本のこころセンターで考える—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：4月1日に公布され、5月1日に施行される元号を定める政令で発表された新元号の「令和」は素晴らしいですね。

A：(1) 日本の古典である万葉集の「初春の令月にして気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」を典拠とする「令和」は、素晴らしいと考えます。

(2) 初めて日本の古典から選ばれた元号の「令和」には、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味が込められている」との安部首相のご説明は素晴らしいと考えます。

(3) 5月1日からの新元号を歓迎すると同時に、新天皇の即位をお喜びしたく存じます。

Q：「令和」の時代に期待することは何ですか。

A：(1) 従来、中国の古典、漢籍からの引用で制定された日本の元号が、初めて、国書である万葉集からの引用で制定されました。

(2) 新元号「令和」の時代には、われわれの身近にある日本の歴史・文化・伝統・様式・デザイン・風景・自然など、日本のアイデンティともいえるものにより親しみを持ち、また、注目したく思います。

(3) 「幸福の青い鳥は身近にいる」といわれます。中国の古典と同様、日本の古典にももっともっと慣れ親しみ、日本の素晴らしさ、日本の心を自分の力で見出し、日々を大切に過ごしたく存じます。

Q：世界のための日本のこころセンターとは何ですか。

A：(1) 今年になって発足した NPO（代表は、元経済産業省幹部の土居征夫氏）です。

(2) 禅、剣道などの武道、二宮尊徳などから日本の心を、研修会やワークショップなどを通してもう一度見直し、これからの日本や世界を考え、少しずつ行動に移す NPO です。「令和」の時代にぴったりの NPO と確信します。

(3) 東京・日本橋・室町で、坐禅会や勉強会を少しずつ行う予定のようです。3 月には、私も、ランチミーティングの講師を務めさせていただきました。

Q：「世界のための日本のこころセンター」はじめ、日本各地の NPO の皆様に対する期待は何ですか。

A：(1) ポツダム宣言に基づく第2次世界大戦後の占領政策により、日本を徹底的に弱体化させ、

- 立ち直らせないために、日本の歴史・文化・伝統・思想・様式などが全面否定されました。
- (2) 来年 2020 年は、第 2 次世界大戦が終了して 75 周年を迎えます。また、元号も、中国の古典、漢籍ではなく、国書の万葉集からの引用で「令和」と改められました。
- (3) 日本の歴史・文化・伝統・思想・様式・自然など、日本のよさ、素晴らしさにもっともっと注目し、よいものは、遠慮することなくどんどん伸ばすことも大切です。

Q：具体的には何をどうすればよいと考えますか。

- A：(1) 例えば、ユネスコ活動に「私の街の宝物」があります。「街」だけではなく、「わたしの～の宝物」として、家族、友達、学校、地域、市町村、都道府県、日本、アジアなどの宝物は何かを考え、様々な形で発表することも素晴らしいと考えます。
- (2) 例えば、日本の資本主義の礎を築いたといわれる、石田梅岩、二宮尊徳、渋沢栄一などの活動をもう一度振り返ること。
- (3) 日本食、日本画、日本の音楽、日本舞踊、日本の建築、日本の街づくり、日本のモノづくり、日本の農業・林業・漁業、日本式経営、日本の劇画・アニメ、日本のゲーム、日本の古典文学・近代文学・現代文学、江戸時代からの日本の教育などにも、もっともっと注目すべきです。「日本的な様式美」とは何かをもっともっと注目すべきと考えます。

Q：学習塾、予備校、私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

- A：(1) 新しいものにチャレンジすると同時に、日本の歴史・文化・伝統・様式などを、日本のよさ、日本の心という観点からもう一度捉え直し、教育活動の一環として積極的に導入していただきたく存じます。
- (2) 中国の古典やヨーロッパの古典に親しむと同時に、万葉集をはじめとする日本の古典にももっともっと親しみ、自分のものとする教育に邁進すること。
- (3) 日本の歴史を、日本の文化・芸術・思想の観点からもう一度学び直すこと。各時代の日本の独自性、素晴らしさにも注目すべきと考えます。

Q：最後にひとことどうぞ。

- A：今月も、先生方がお読みになるときっとためになる本を、何冊か紹介させていただきます。
- (1) 1 冊目は、岡義武著「明治政治史（上）」岩波文庫、岩波書店 2019 年 2 月 15 日刊と、同下巻 3 月 15 日刊の 2 冊です。東京大学法学部の講義ノートをベースに、読めばためになる詳細な「注」を大幅に加筆した本書は、大部ではありますが、読み始めたら手から離れないくらい魅力的で、引き込まれます。社会科担当の先生の必読書。本著の続き、「転換期の大正」岩波文庫は、4 月 17 日に刊行予定です。
- (2) 2 冊目は、渋沢栄一著「雨夜譚（あまよがたり）－渋沢栄一自伝－」岩波文庫、岩波書店 1981 年 1 月 16 日刊です。生誕から 34 歳までの、手に汗握る自叙伝。日本資本主義の父、渋沢栄一翁の原点を知るにはうってつけの書です。
- (3) 3 冊目として、今月もまた、小室直樹先生のご著書を紹介いたします。小室直樹著「経済学をめぐる巨匠たち、経済思想ゼミナール」ダイヤモンド社 2004 年 1 月 8 日刊です。同著「新戦争論」光文社 1971 年 5 月 30 日刊とともに、経済発展や平和構築の基礎を考えるのに、小室

先生のご著書は参考になります。

(4) 4冊目は、小林喜光監修・経済同友会著「危機感なき茹でガエル日本、過去の延長上に未来はない」中央公論新社 2019年3月25日刊です。公益社団法人経済同友会小林代表幹事の4年間の活動総まとめ。日本と日本企業活性化への具体的提言集です。「過去の延長線上に未来はない」ならどうしたらよいのかを、具体的に議論された結果が詳細に示されています。是非、ご一読ください。

(5) 5冊目は、長谷川慶太郎著「長谷川慶太郎の大局を読む、今こそ『米中』を呑み込め」徳間書店 2019年3月31日刊です。1927年生まれのエコノミスト長谷川先生が渾身の力を込めて執筆なさった本著から、米国 VS 中国 5G 戦争、欧州（独・英）金融不安、新興国資金流出など三重苦の世界経済についての最先端の情報を学ぶことができます。本書と、先に紹介したドイツ在住のジャーナリスト・熊谷徹著「イスラエルがすごい、マネーを呼ぶイノベーション大国」新潮新書、新潮社 2018年11月20日刊を併読すると、5G はじめ最先端技術の動向とこれからの社会との関係がよくわかります。

<お知らせ>

開倫塾主催、第14回全国模擬授業大会が5月26日（日）に栃木県足利市の白鷗大学足利高等学校で開催されます（ご参加はご自由です）。前日の5月25日（土）16時からのプレイベントは、「スマホ依存症の現状と対策」講演会、講師・神野美智男有朋高等学院校長（博士）です（ご参加はご自由です）。

開倫塾のHPからお申し込みください。

2019年4月1日（月）林明夫記